

2.5 施設の立地

2.5.1 観光施設の立地と観光客数の推移

本市の観光入込客数は増加傾向にあり、平成 19 年から平成 29 年にかけて年間 50 万人以上増加しています。

目的別ではスポーツ・レクリエーション目的の観光入込客数が半数以上を占めているものの、近年減少傾向にあります。

また、加東市の観光施設の中でも特に「滝野温泉ぽかぽ」の利用者数が多く、平成 25 年以降は 17 万人前後で推移しています。

観光施設の多くは市街地部に立地していますが、一部キャンプ場や歴史施設などが湖畔や山地部に、ゴルフ場は市の中央部から東部にかけて立地しています。

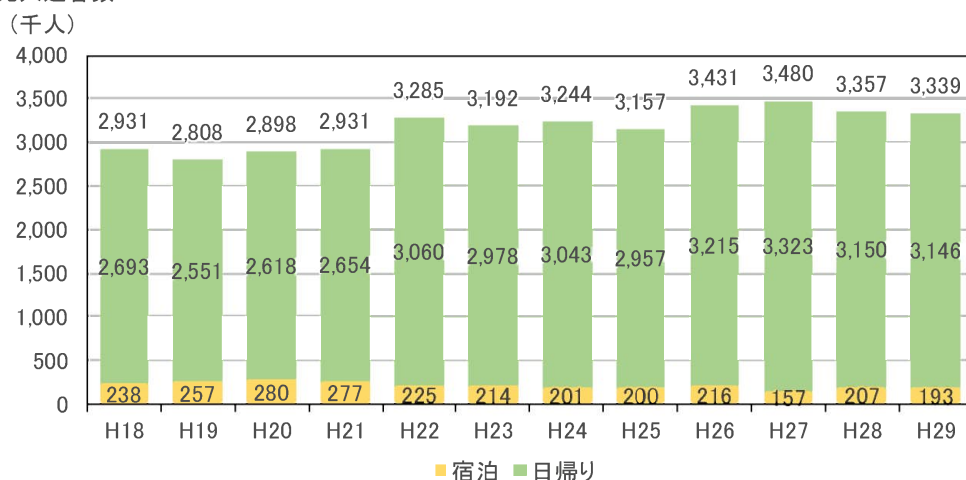
表 2-11 観光入込客数の推移

(千人)	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
宿泊	238	257	280	277	225	214
日帰り	2,693	2,551	2,618	2,654	3,060	2,978
総数	2,931	2,808	2,898	2,931	3,285	3,192

(千人)	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
宿泊	201	200	216	157	207	193
日帰り	3,043	2,957	3,215	3,323	3,150	3,146
総数	3,244	3,157	3,431	3,480	3,357	3,339

資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

観光入込客数



資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

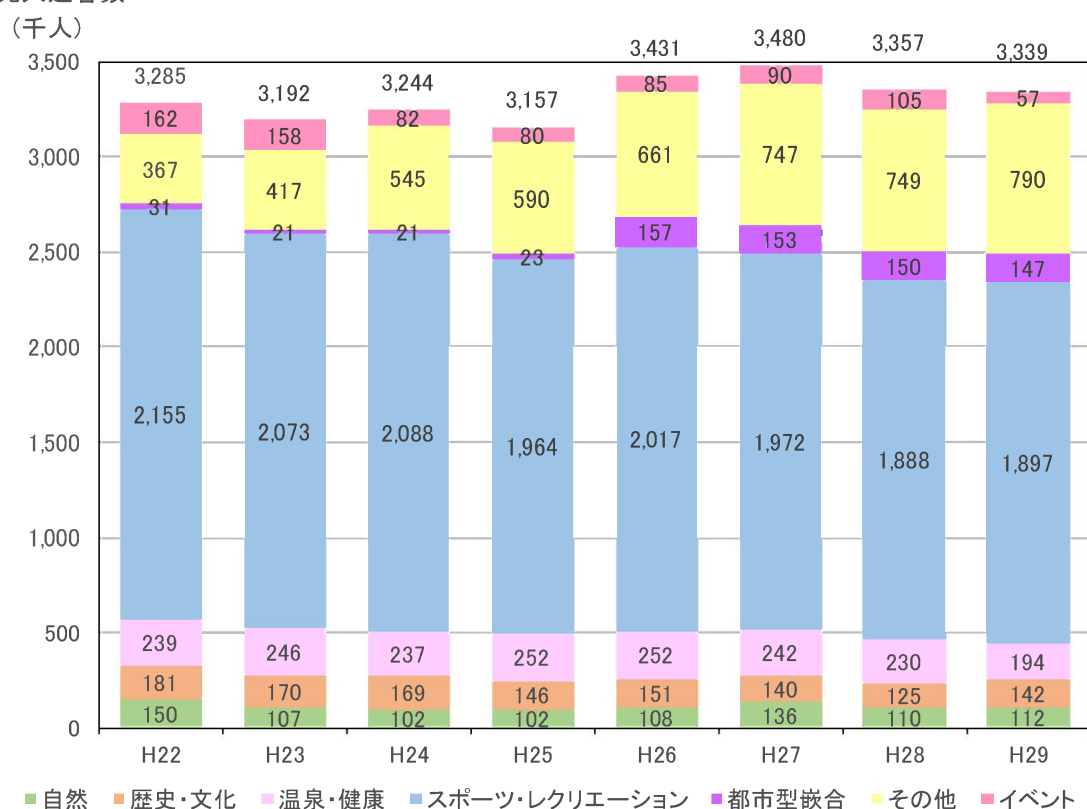
図 2-20 観光入込客数の推移

表 2-12 目的別観光入込客数の推移

(千人)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
自然	150	107	102	102	108	136	110	112
歴史・文化	181	170	169	146	151	140	125	142
温泉・健康	239	246	237	252	252	242	230	194
スポーツ・レクリエーション	2,155	2,073	2,088	1,964	2,017	1,972	1,888	1,897
都市型嵌合	31	21	21	23	157	153	150	147
その他	367	417	545	590	661	747	749	790
イベント	162	158	82	80	85	90	105	57
総数	3,285	3,192	3,244	3,157	3,431	3,480	3,357	3,339

資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

観光入込客数



資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

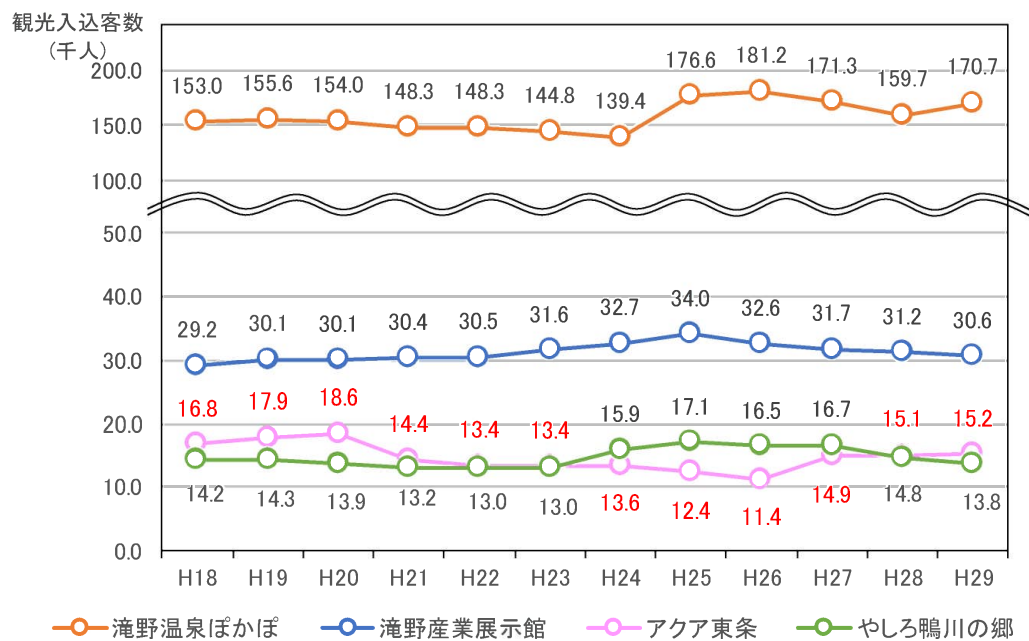
図 2-21 目的別観光入込客数の推移

表 2-13 施設利用者数の推移

(千人)	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
滝野温泉ぽかぽ	153.0	155.6	154.0	148.3	148.3	144.8
滝野産業展示館	29.2	30.1	30.1	30.4	30.5	31.6
アクア東条	16.8	17.9	18.6	14.4	13.4	13.4
やしろ鴨川の郷	14.2	14.3	13.9	13.2	13.0	13.0

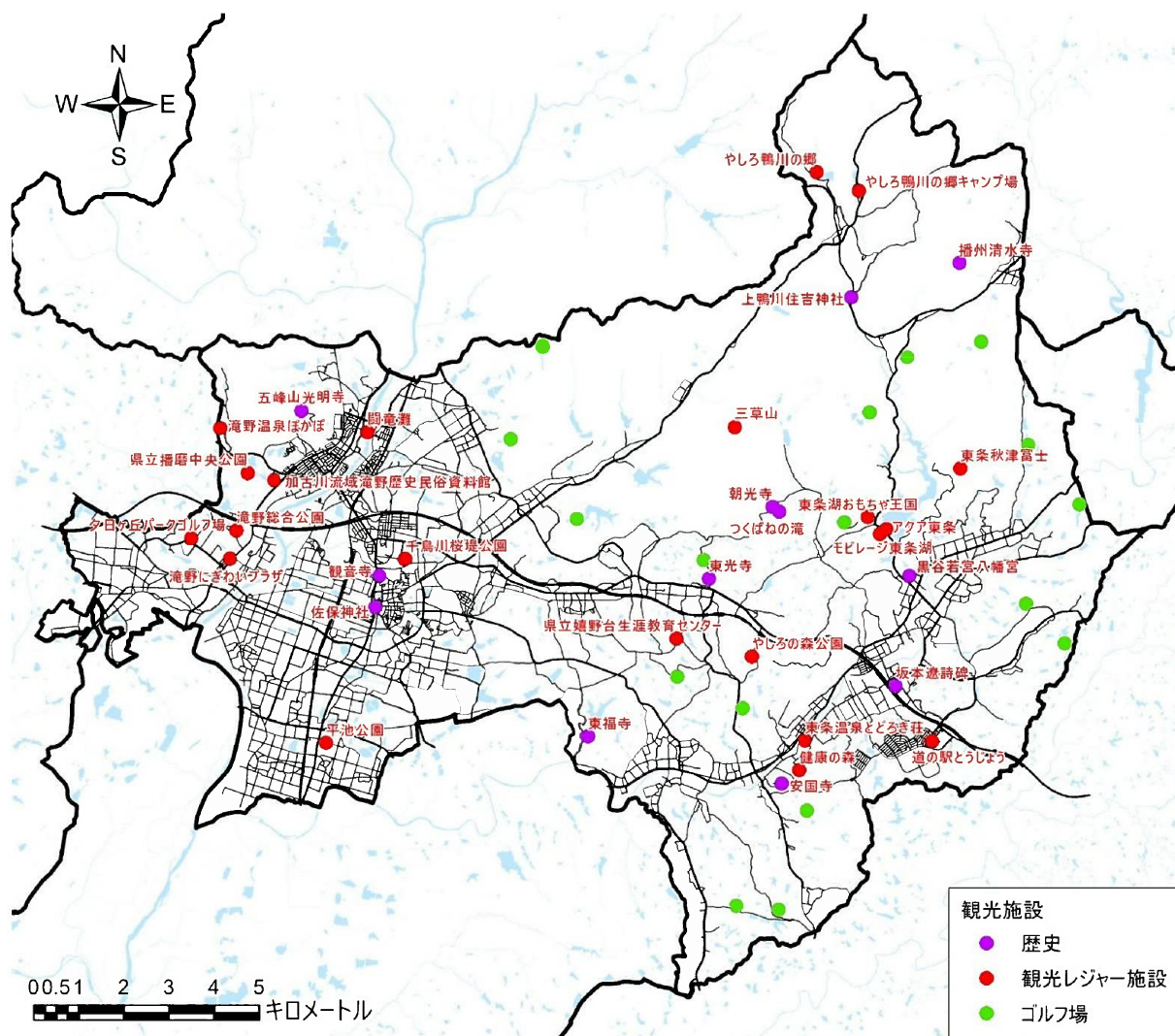
(千人)	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
滝野温泉ぽかぽ	139.4	176.6	181.2	171.3	159.7	170.7
滝野産業展示館	32.7	34.0	32.6	31.7	31.2	30.6
アクア東条	13.6	12.4	11.4	14.9	15.1	15.2
やしろ鴨川の郷	15.9	17.1	16.5	16.7	14.8	13.8

資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）



資料：商工観光課（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

図 2-22 施設利用者数の推移



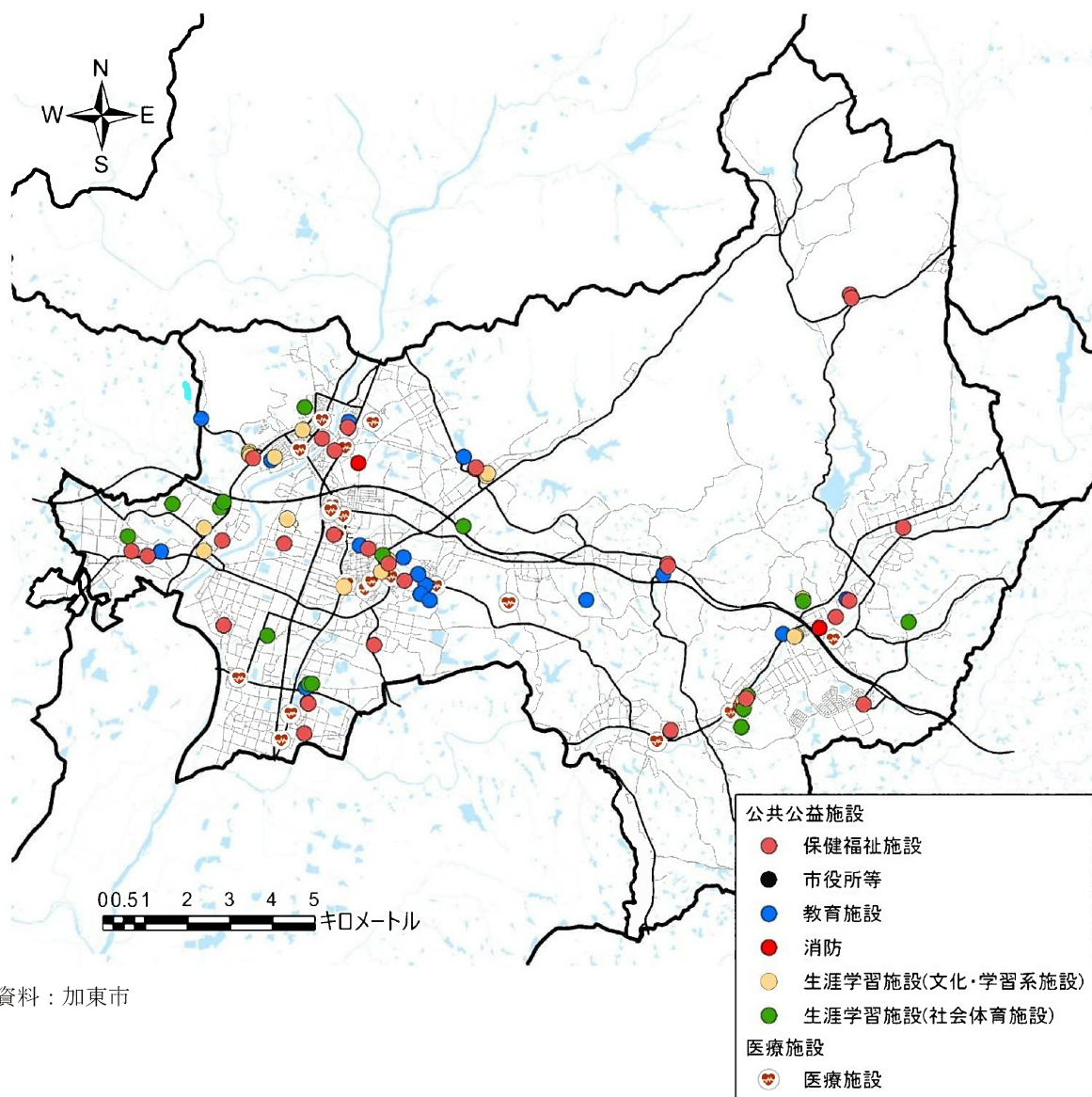
資料：加東市観光ガイドマップ、国土数値情報「観光資源」データより作成

図 2-23 観光施設の立地

2.5.2 公共公益施設の立地

本市の公共公益施設は社地域の市役所周辺、滝野地域の滝野駅周辺及び東条地域の県道小野藍本線沿線、ひょうご東条 IC 周辺に集積しています。

これに対し、市中央部付近では公共公益施設の立地は少なくなっています。



資料：加東市

図 2-24 公共公益施設の立地

2.6 道路・交通現況

2.6.1 道路網の現況

(1) 道路整備状況

本市の道路延長は平成 30 年の時点で約 669km、この内、市道が 535km を占めています。
舗装率は国道、県道はそれぞれ 100% となっていますが、市道は平成 30 年の時点で 94.2% と一部未舗装区間が存在しています。また、市道の内、約 20km 区間は自動車交通不能区間となっています。

表 2-14 道路延長の推移

年	道路延長(m)				市道の詳細(m)			道路面積 (㎡)	舗装率(%)		
	総延長	国道	県道	市道	実延長	うち 自動車交通 不能区間延長	舗装道		国道	県道	市道
平成 21 年	667,948	31,719	107,472	528,757	513,656	25,885	466,889	6,913,719	100.0	99.4	90.9
22	668,494	31,719	107,472	529,303	514,201	25,885	470,771	6,928,489	100.0	99.4	91.6
23	668,631	31,719	107,472	529,440	514,338	25,130	473,907	6,929,646	100.0	99.4	92.1
24	671,420	31,719	107,472	532,229	516,285	20,869	482,665	6,929,646	100.0	99.4	93.5
25	673,013	31,719	107,482	533,812	517,922	20,868	484,301	6,948,924	100.0	100.0	93.5
26	668,228	31,719	102,783	533,726	521,309	20,542	489,328	6,959,866	100.0	100.0	93.9
27	668,301	31,719	102,783	533,799	521,381	20,486	490,017	6,970,424	100.0	100.0	94.0
28	668,603	31,719	102,783	534,101	521,683	20,258	490,852	6,972,355	100.0	100.0	94.1
29	668,702	31,719	102,783	534,200	521,783	20,258	491,510	6,973,258	100.0	100.0	94.2
30	669,122	31,719	102,783	534,620	522,203	20,031	491,944	6,976,445	100.0	100.0	94.2

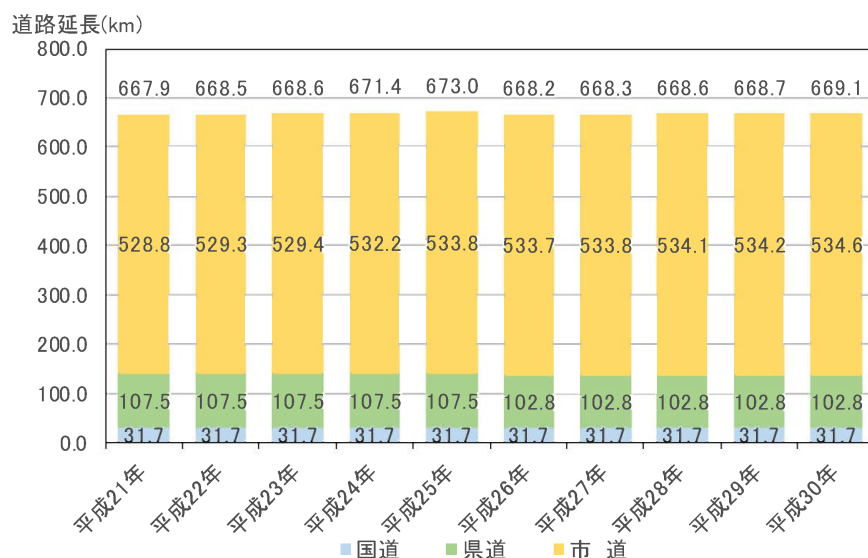
【各年 3 月末時点】

※「道路延長」は、橋梁の延長を含みます。

※「舗装率」は、舗装道延長÷道路実延長×100 で計算しています。

※自動車交通不能区間とは、幅員、曲線半径、こう配その他道路の状況により最大積載量 4 トンの普通貨物自動車が行き通れない区間をいいます。

資料：加東市（加東市統計書 2019 年 3 月発行）



資料：加東市（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

図 2-25 道路延長の推移

(2) 主要幹線道路網

広域を連絡する道路として、市の中央を東西方向に中国自動車道並びに主要地方道西脇三田線が、南北方向に国道 175 号や国道 372 号が整備されています。

また、近隣自治体を連絡する道路として、主要地方道小野藍本線や神戸加東線などが整備されています。

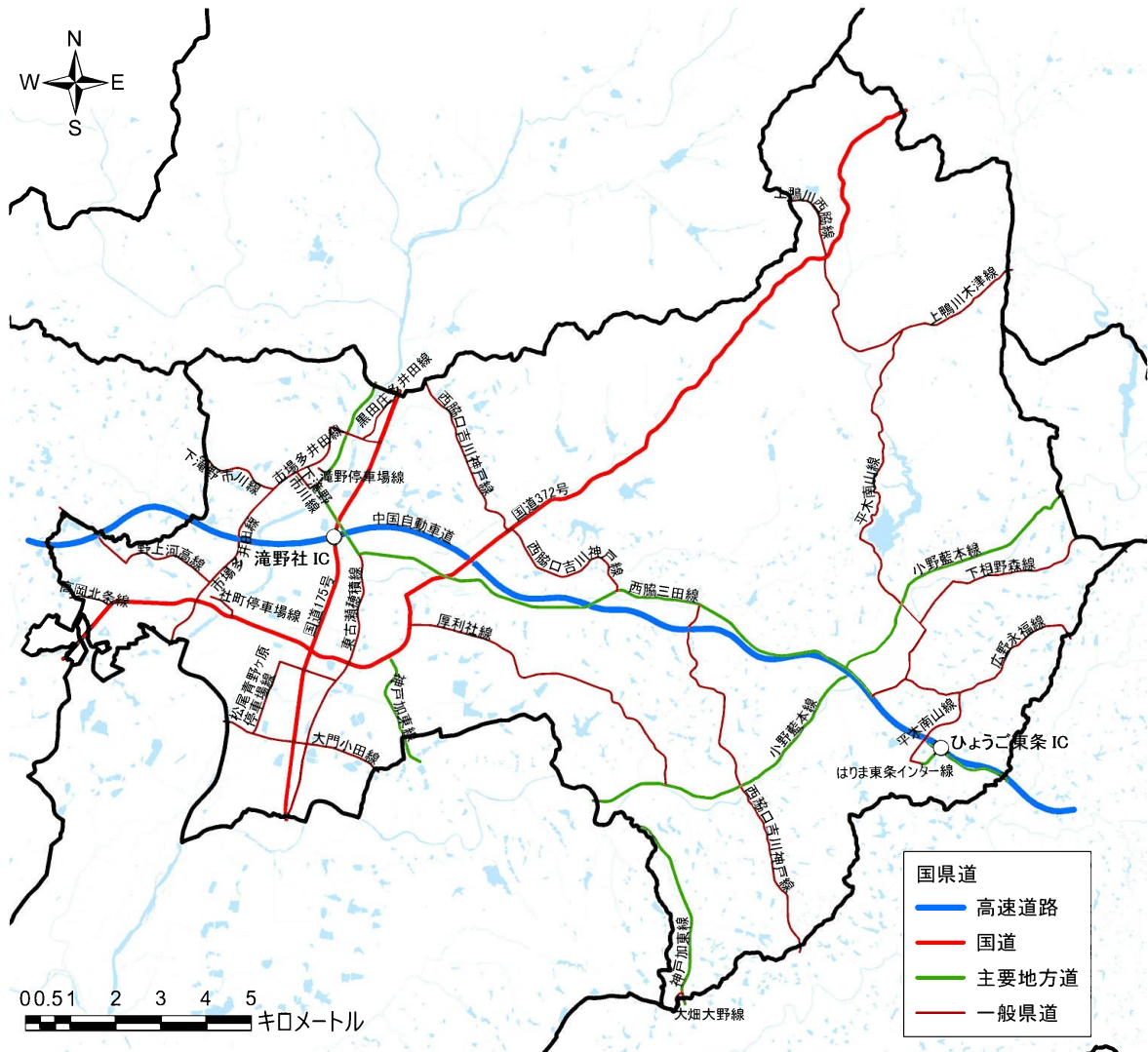


図 2-26 幹線道路網

(3) 市道

本市の1級市道及び2級市道は、主要幹線道路を補完するように配置されています。

社地域では滝野地域、東条地域に比べ1級市道及び2級市道が多く配置されています。

市道の幅員別延長をみると6.5m以上の道路が市道全体の19.7%、4.5m以上の道路が市道全体の約36.5%で平成21年からそれぞれ1%程度増加しています。一方、4.5m未満の道路は43.8%であり、平成21年の45.7%から減少しています。

また、歩道の整備状況をみると、社地域の市街地部では歩道が整備されている区間が多くなっていますが、滝野地域、東条地域では歩道が整備されていない区間が多くなっています。

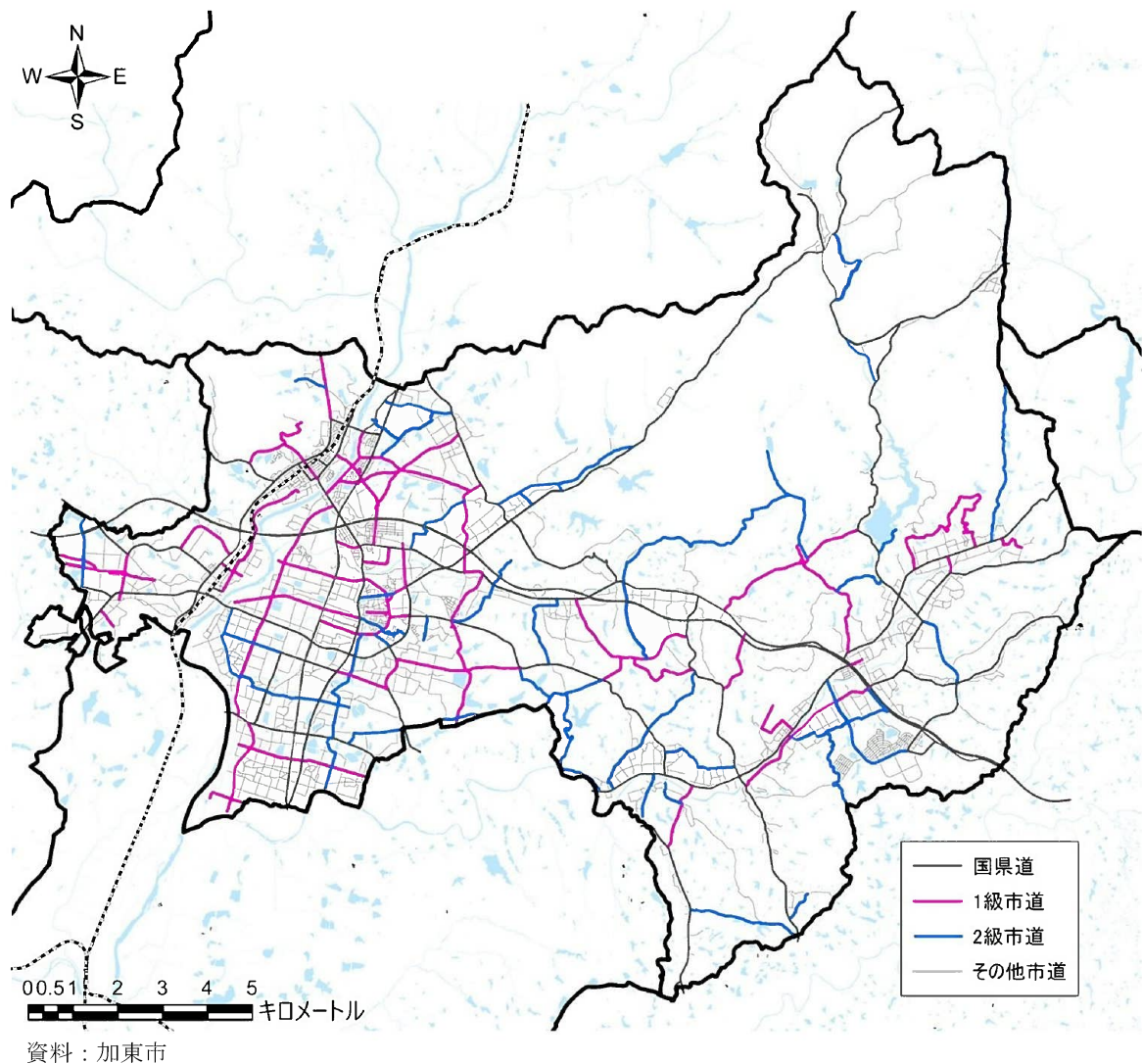


図 2-27 1級市道及び2級市道の配置

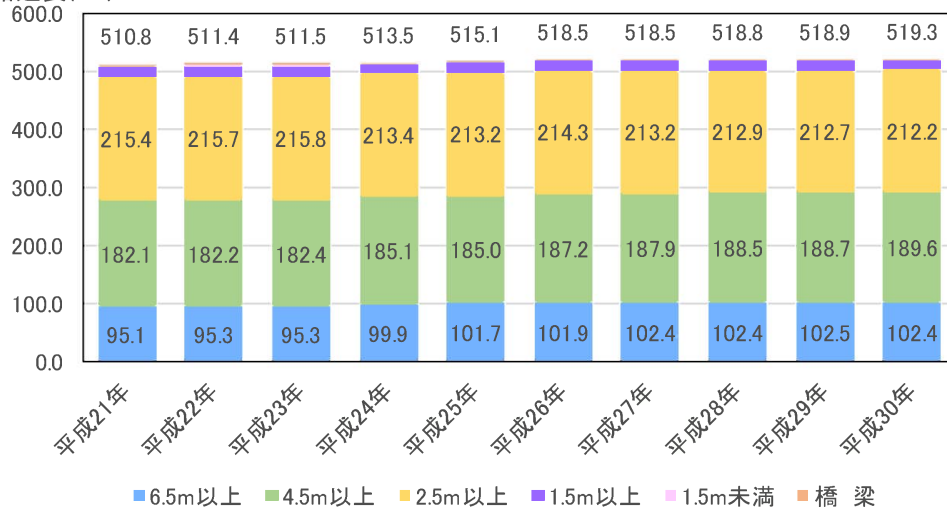
表 2-15 市道の幅員別延長と面積の推移

幅員	区分	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
総数	延長	510.8	511.4	511.5	513.5	515.1	518.5	518.5	518.8	518.9	519.3
	面積	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
6.5m 以上	延長	95.1	95.3	95.3	99.9	101.7	101.9	102.4	102.4	102.5	102.4
	面積	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
4.5m 以上	延長	182.1	182.2	182.4	185.1	185.0	187.2	187.9	188.5	188.7	189.6
	面積	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
2.5m 以上	延長	215.4	215.7	215.8	213.4	213.2	214.3	213.2	212.9	212.7	212.2
	面積	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
1.5m 以上	延長	17.4	17.4	17.4	14.5	14.5	14.5	14.4	14.4	14.4	14.4
	面積	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.5m 未満	延長	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
	面積	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
橋 梁	延長	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9
	面積	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【各年 3 月末時点】

資料：加東市（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

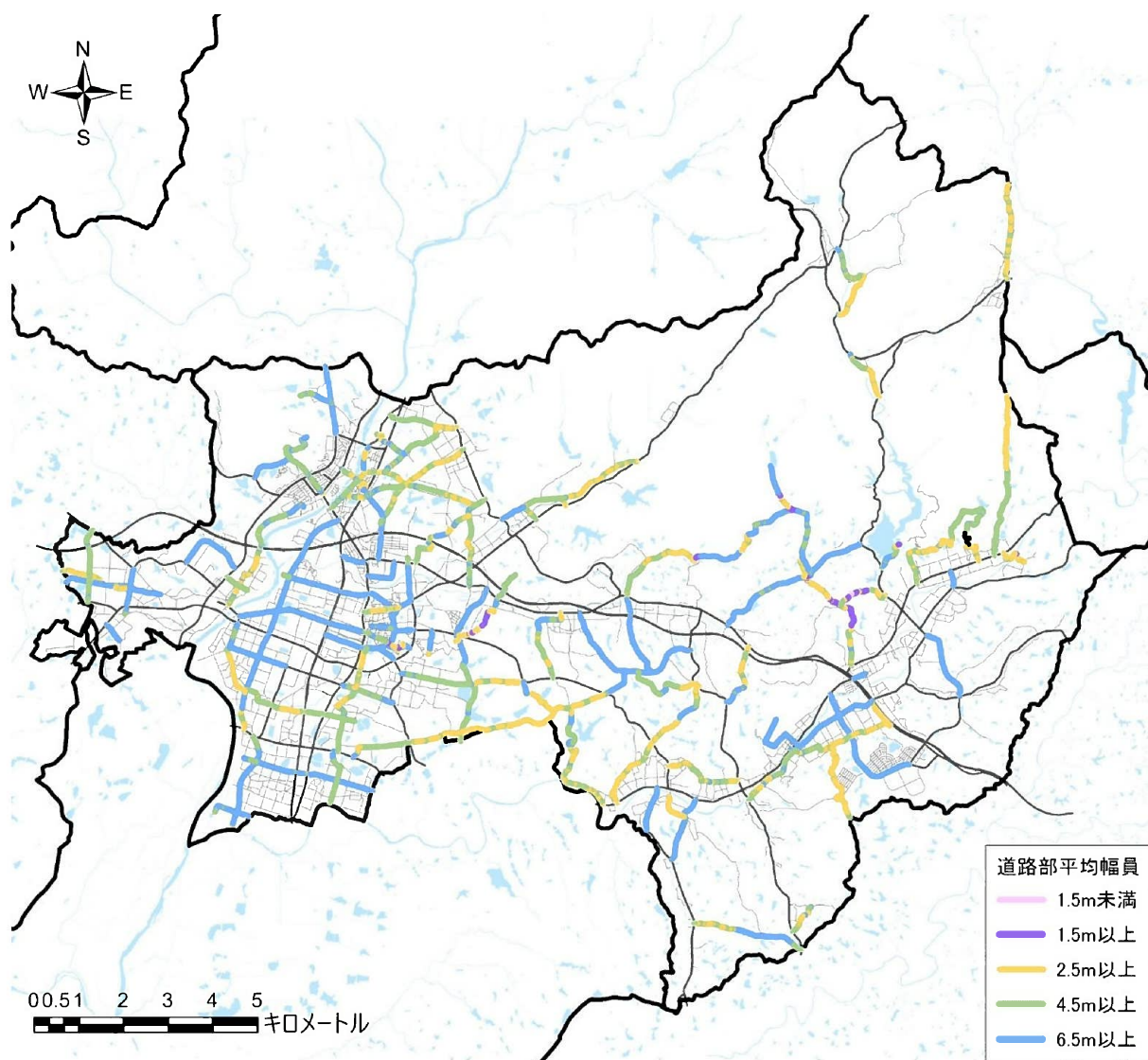
道路延長(km)



【各年 3 月末時点】

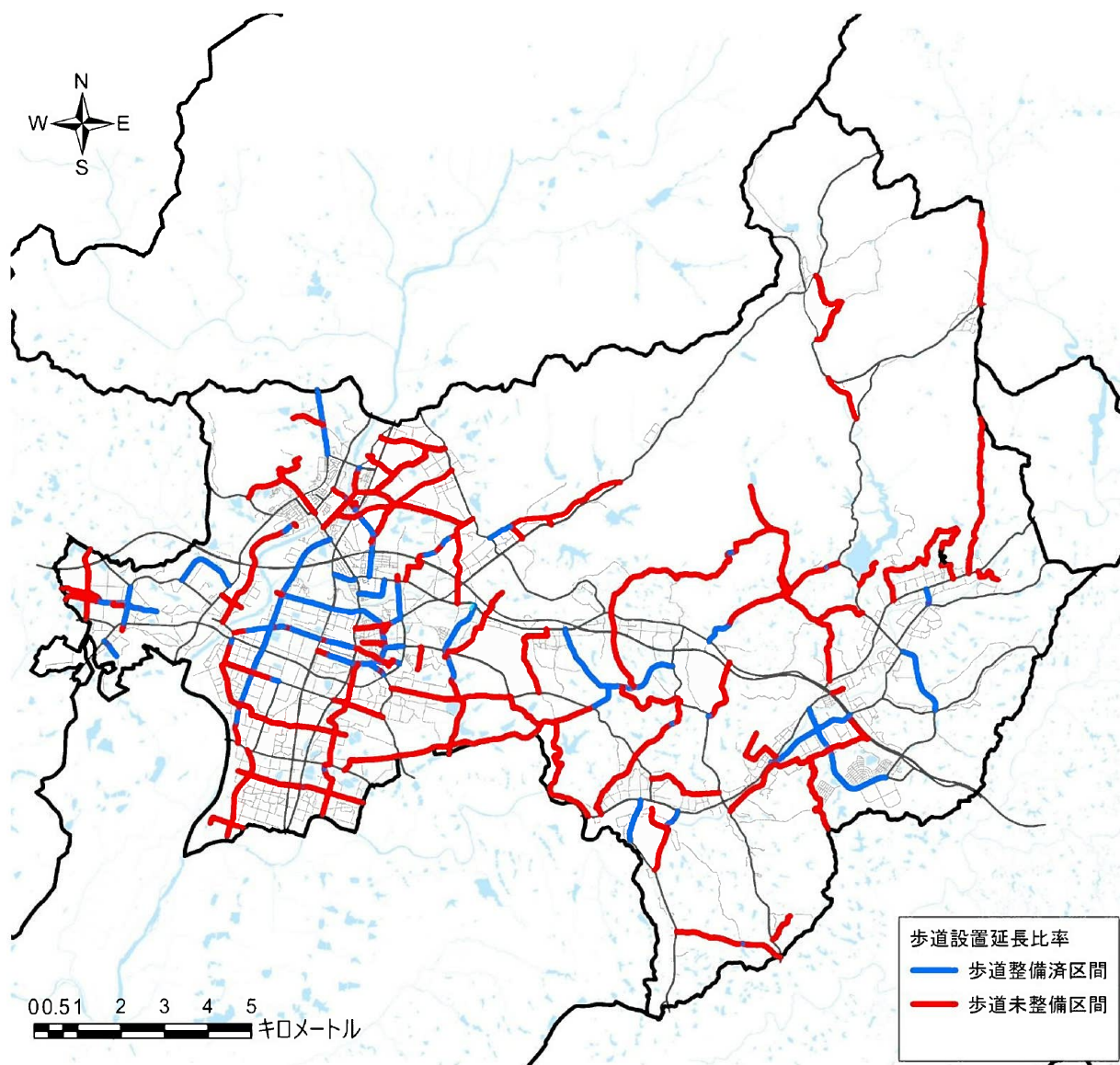
資料：加東市（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

図 2-28 市道の幅員別延長の推移



資料：道路台帳データ（加東市）

図 2-29 車道部平均幅員（1 級市道及び 2 級市道）



資料：道路台帳データ（加東市）

図 2-30 歩道の整備状況（1 級市道及び 2 級市道）

(4) 都市計画道路

本市では東播都市計画区域において 43.74km、東条都市計画区域において 9.71km の都市計画道路が決定されています。改良済延長は東播都市計画区域では 34.18km、改良率 78.1%、東条都市計画区域で 8.08km、改良率 83.2%となっています。

東播都市計画道路では、市街地を通過する都市計画道路明石舞鶴線（（一）東古瀬穂積線）などで未着手又は概成済路線が残っています。また、東条都市計画区域では都市計画道路中央幹線が整備中の他は、概ね改良済みとなっています。

表 2-16 都市計画道路の改良状況

都市計画区域名称	総延長(km)	改良済延長(km)	改良率
東播都市計画区域	43.74	34.18	78.1
東条都市計画区域	9.71	8.08	83.2

資料：加東市（2018（平成 30）年）3 月 31 日現在）
加東市都市計画マスタープラン 2019 年 3 月

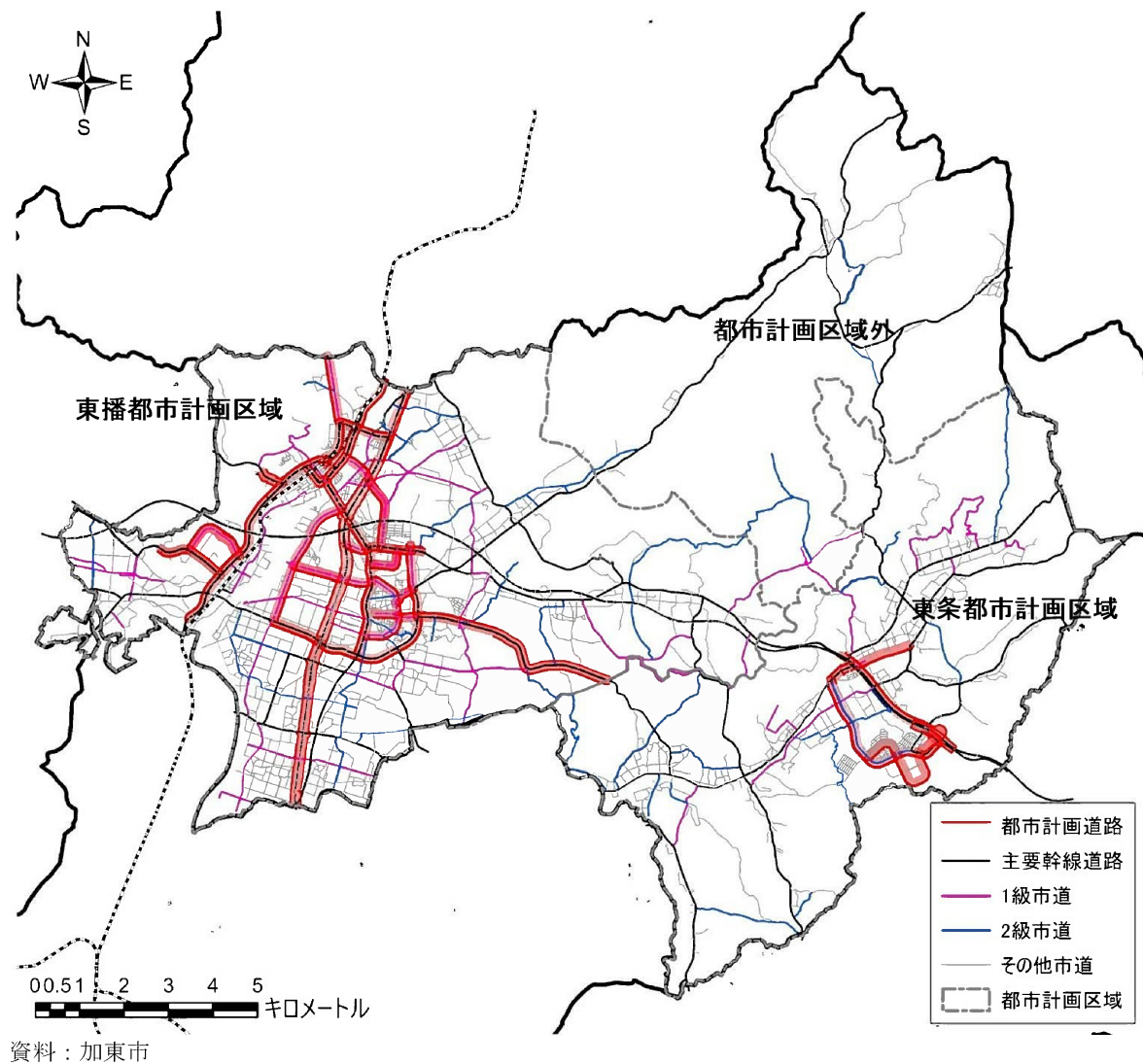
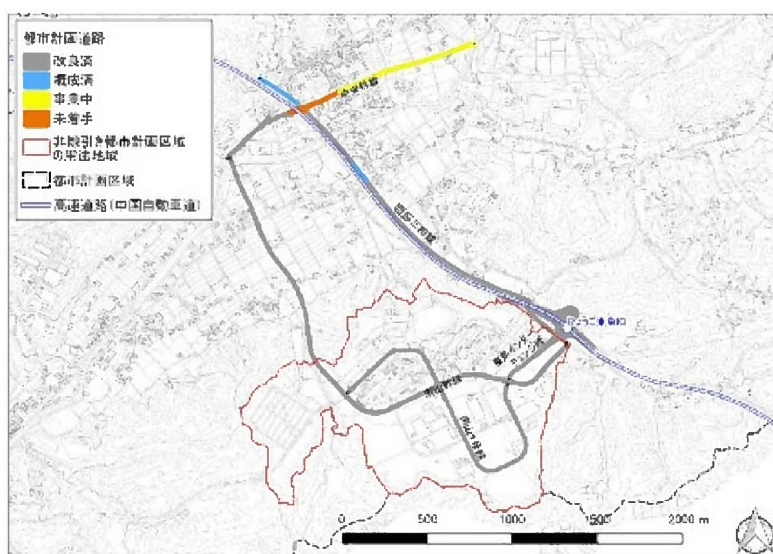
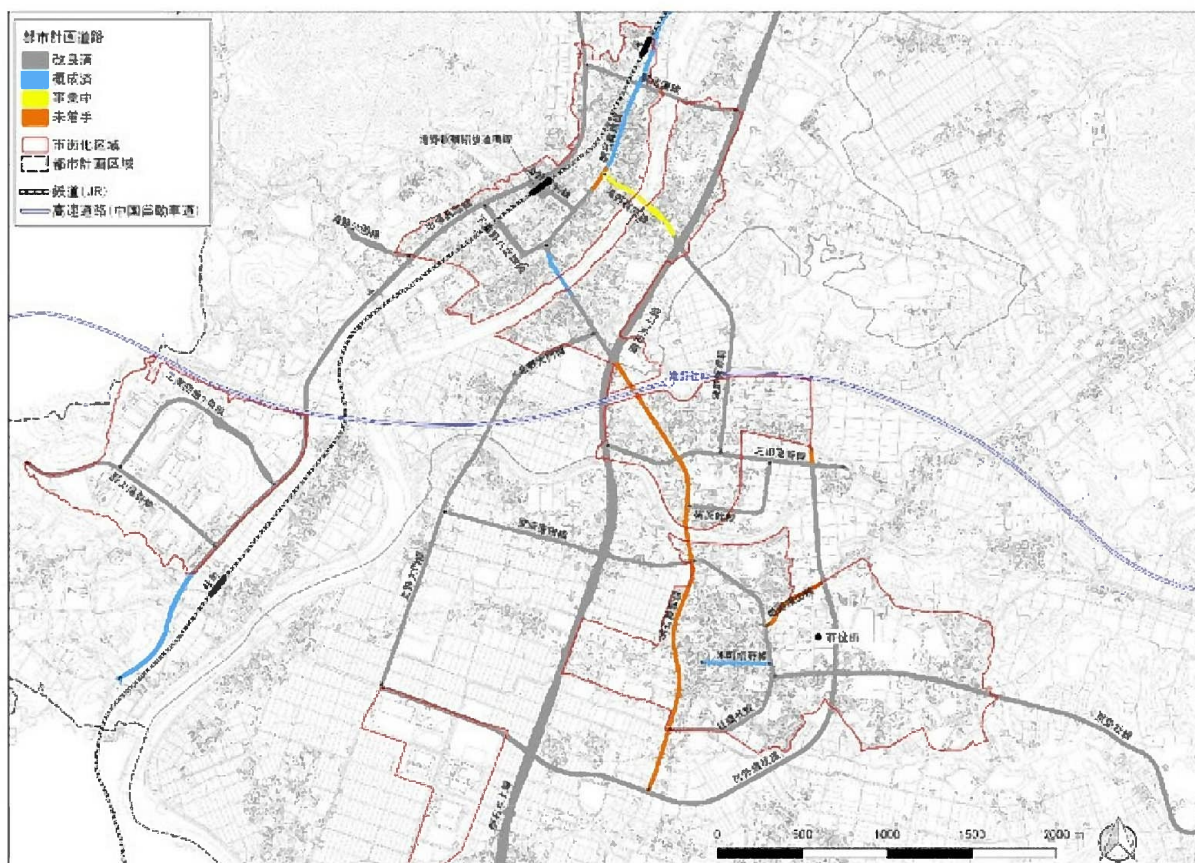


図 2-31 都市計画道路

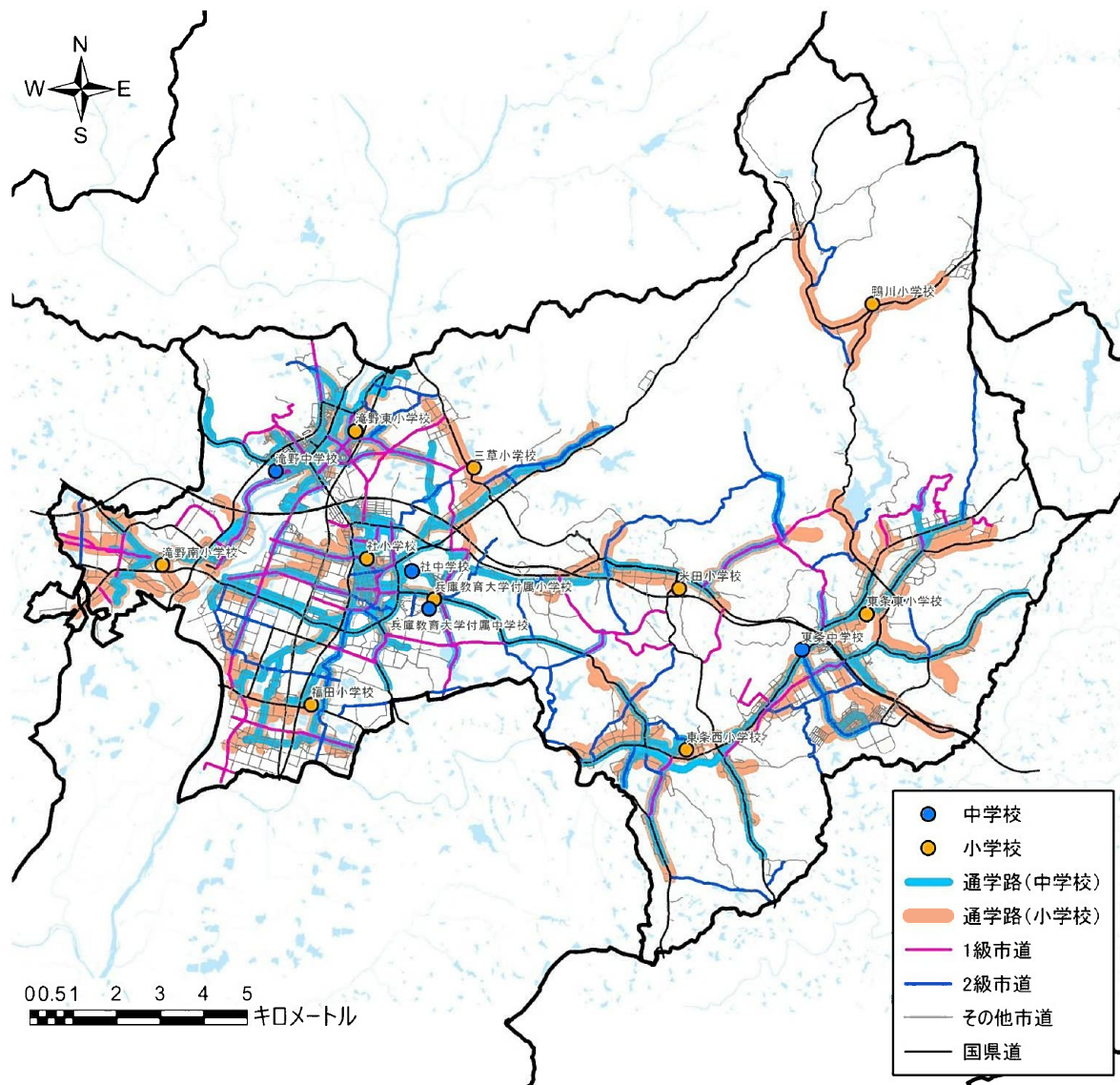


資料：加東市（2018（平成30）年）3月31日現在）
 加東市都市計画マスタープラン 2019年3月

図 2-32 都市計画道路の整備状況（上：東播都市計画区域、下：東条都市計画区域）

2.6.2 小中学校と通学路

本市の小学校及び中学校の通学路は、主要幹線道路及び1級市道、2級市道を中心に指定されています。



資料：加東市

図 2-33 通学路

2.6.3 路線バス

市内では神姫バス、神姫グリーンバス（西脇三宮線、姫路社線、社明石線等）が運行されている他、生活手段を確保するために市町村運営有償運送（米田ふれあい線、きよみず線、とうじょうあいあい線）が運行されています。

市町村運営有償運送では、各地域と市民病院、商業施設、市役所などを結ぶ運行が行われています。



資料：加東市公共交通ガイドブック第2版 令和元年5月発行 加東市地域公共交通活性化協議会

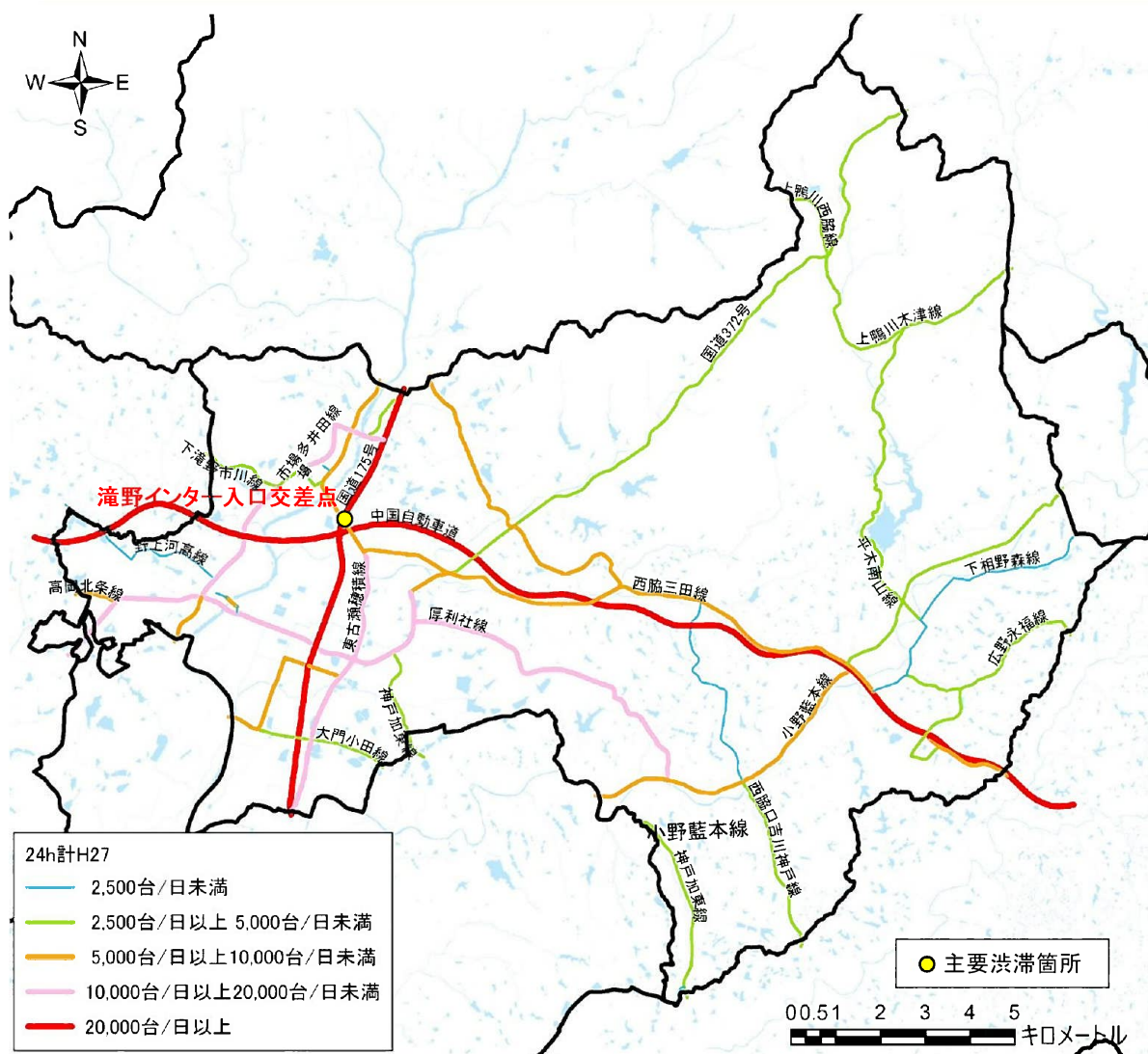
図 2-34 バス路線

2.6.4 自動車交通量

市内の主要幹線道路の交通量は、国道 175 号が 2 万台以上の交通量となっています。この他、国道 372 号、厚利社線、東古瀬穂積線、市場多井田線で 1 万台以上の交通量となっています。

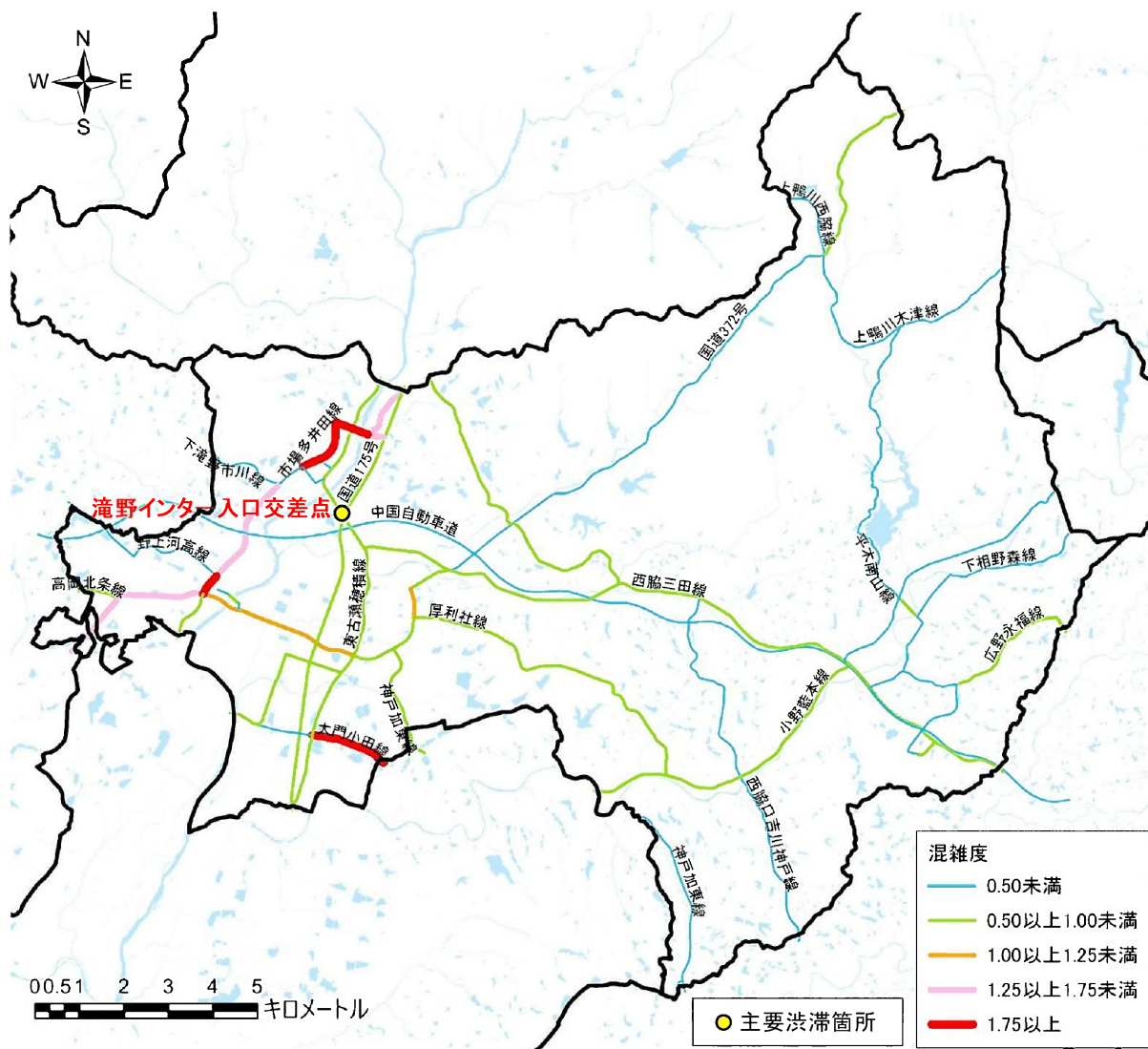
混雑度については、国道 372 号の東古瀬穂積線の西側区間、市場多井田線の国道 372 号北側区間、大門小田線の東古瀬穂積線の東側区間では混雑度が 1.0 以上となっています。この内、市場多井田線及び大門小田線では 1.75 を超過する区間がみられます。その他の路線は概ね 1.0 を下回っています。

また、滝野インター入口交差点は『地域の主要渋滞箇所』に選定されています。



資料：平成 27 年度 道路交通センサス
地域の主要渋滞箇所 平成 25 年 2 月 兵庫地区渋滞対策協議会

図 2-35 市内の自動車交通量



資料：平成 27 年度 道路交通センサス

混雑度	交通状況の推定
1.0 未満	飽和時間:0、 $Q/C < 1.0$ 昼間 12 時間を通して、道路が混雑することなく、円滑に走行できる。渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんどない。
1.0 ～ 1.25	飽和時間はほとんどの区間で 1～2 時間以下、 Q/C はほとんどの区間で 1.0 以下、 昼間 12 時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間(ピーク時間)ある。何時間も混雑が連続する可能性は非常に小さい。
1.25 ～ 1.75	飽和時間は 0～12、 $Q/C > 1$ の時間が 10～15% ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態。ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑への過度状態と考えられる。
1.75 以上	飽和時間 0 がほとんどなくなる。 $Q/C > 1$ の時間が 50%を超える。 慢性的な混雑状態を呈する。

(出典:「道路の交通容量」(社)日本道路協会、S59)

図 2-36 市内幹線道路の混雑度

2.6.5 交通事故発生状況

平成 19 年から平成 30 年の市内の人身事故件数は平成 19 年の 338 件をピークに減少傾向にあり、平成 30 年には 178 件と平成 19 年から約 47%減少しています。

平成 19 年から平成 29 年の交通事故は国道で 744 件、県道で 924 件、市道で 715 件と県道での事故が若干多くなっていますが、死亡・重傷事故の発生については市道での割合が最も多くなっています。

交通事故の発生箇所をみると、社地域及び滝野地域の市街地部で事故が多く発生しています。

平成 19 年から平成 29 年の歩行者・自転車関係事故の発生状況をみると、平成 24 年の 63 件、31.2%をピークに減少傾向にあり、平成 28 年には 34 件、24.3%となっています。

表 2-17 人身事故発生件数の推移

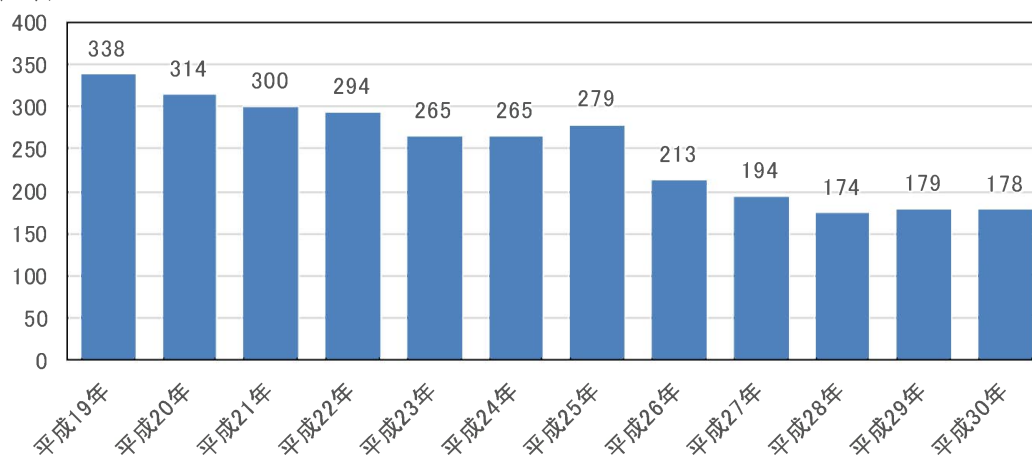
	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
人身事故発生件数	338	314	300	294	265	265

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
人身事故発生件数	279	213	194	174	179	178

資料：加東警察署（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

事故発生件数

(件/年)



資料：加東警察署（加東市統計書 2019 年 3 月発行）

図 2-37 交通事故発生件数の推移

表 2-18 道路別交通事故発生

	国道	県道	市道	その他
事故発生件数	744	924	715	94

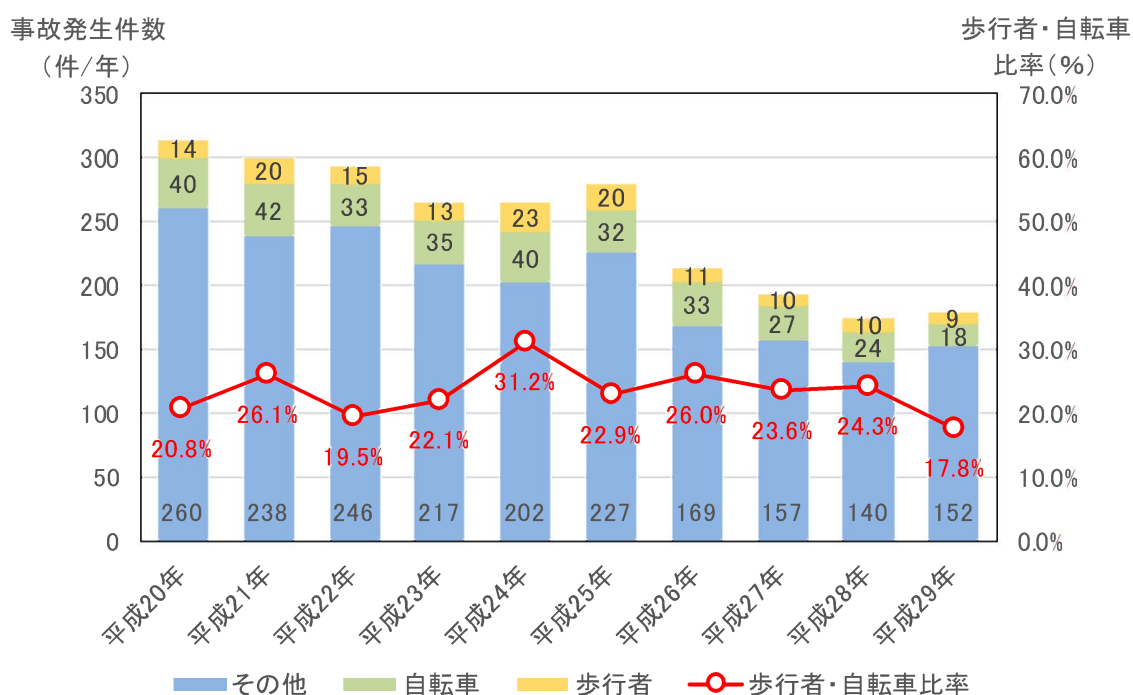
資料：加東市（平成 20 年～平成 29 年）

表 2-19 歩行者・自転車関係事故件数の推移

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
その他	260	238	246	217	202
自転車	40	42	33	35	40
歩行者	14	20	15	13	23
合計	314	300	294	265	265

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
その他	227	169	157	140	152
自転車	32	33	27	24	18
歩行者	20	11	10	10	9
合計	279	213	194	174	179

資料：加東市資料（平成 20 年～平成 29 年）



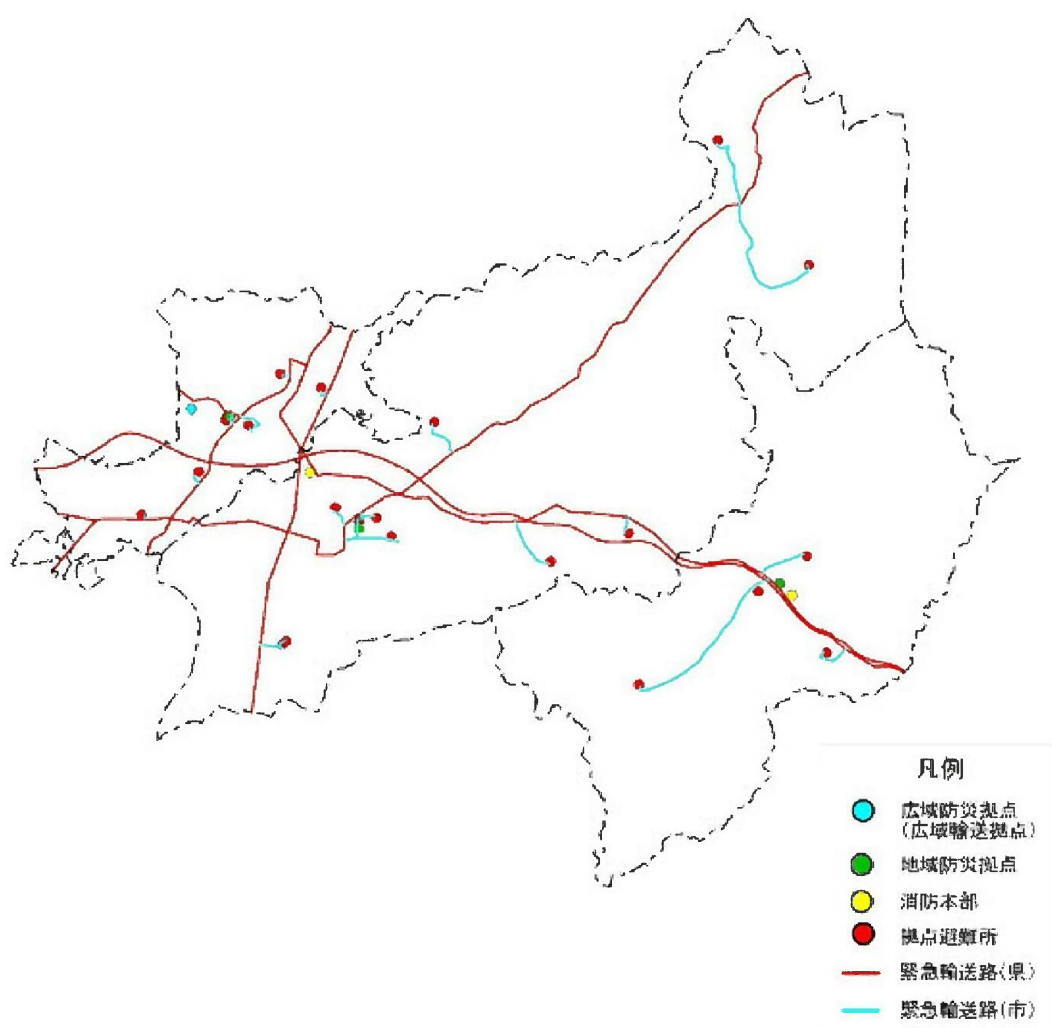
資料：加東市資料

図 2-38 歩行者・自転車関連事故件数の推移

2.7 防災

2.7.1 緊急輸送道路ネットワーク

本市が設定する緊急輸送道路は、社地域、滝野地域の市街地部に比べ、社地域の北東部及び東条地域では指定されている路線が少ない状況にあります。

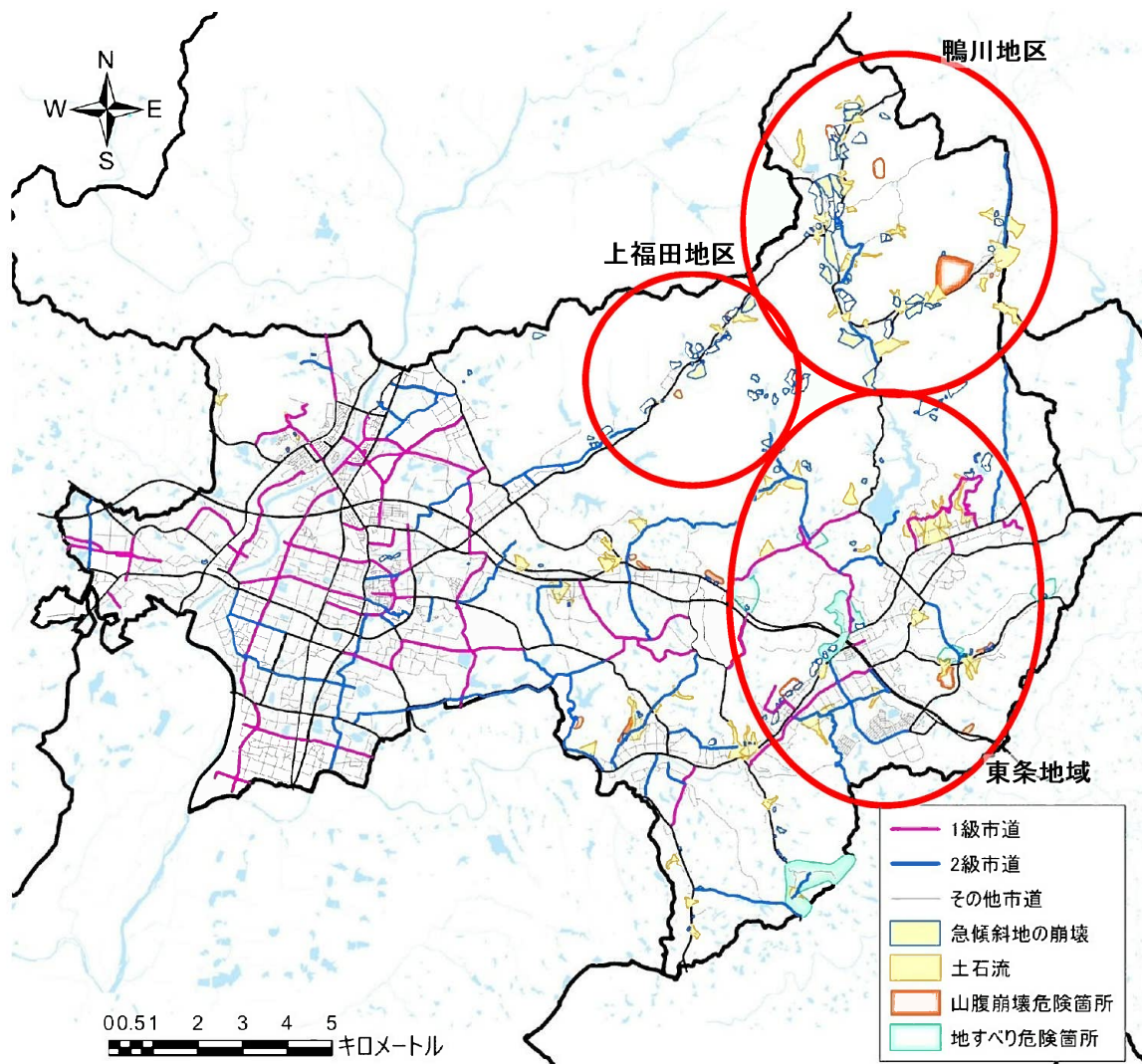


資料：加東市地域防災計画【震災対策編】 平成30年 加東市防災会議

図 2-39 緊急輸送道路ネットワーク

2.7.2 土砂災害危険箇所

本市における土砂災害の危険箇所は、市東部の鴨川地区、上福田地区、東条地域等の山地部付近に多くみられます。



資料：加東市

図 2-40 土砂災害危険箇所